

[スパークル]
Sparkle
Surugadai University News

2024
autumn

特集

法学部で選挙の意義を学ぶ

模擬選挙は、法学部1年生「プレゼミナールⅠ/Ⅱ」科目で例年行っているイベントです。選挙の意義や方法、現在の国政選挙の争点等について学ぶ機会となっています。

CROSTALK 教育実習で学んだ経験を将来に活かす

財務状況報告2023年度

活動報告 2024年7月～9月

駿大スポーツ #硬式野球部 下間 博貴 選手

2024年度表彰学生発表

Circle and Me 茶道クラブ×岡本さん



法学部で選挙の意義を学ぶ



**主権者として政治に積極的に参加する
意欲を育む**

このイベントでは、1年生が主権者として選挙に参加するために必要な基礎的知識を修得すること、そして、政治に積極的に参加する意欲を育むことを目的としています。

今回は、実際の衆議院選挙をイメージして、1年生は小選挙区制と比例代表制の2票を投じる経験をしました。1年生はまず、比例代表における政党間の政策討論会と、小選挙区候補者の政見放送の動画を見ました。この動画では、「選挙サポーター」の学生たちが政治家役を演じました。その後、1年生は飯能市選挙管理委員会より貸借した実際の記載台や投票箱を用いて投票に臨みました。

原稿執筆者…法学部准教授 笹岡伸矢

法学部准教授 和田 忍

法学部講師 黒木美来



模擬選挙は、法学部1年生「プレミナールⅠ/Ⅱ」科目で例年行っているイベントです。選挙の意義や方法、現在の国政選挙の争点等について学ぶ機会となっています。

運営した学生のコメント

法学部3年 戸田 壮真

今回の模擬選挙は「未来を変える重要なその一票」をスローガンとして、選挙について理解を深めることを目的として実施されました。小選挙区では、あじさい党公認の水月駿さんとチューリップ党公認の優木ローラさんの2名が立候補しました。また比例区では、あじさい党、チューリップ党、ひまわり党の3つの政党が競い合いました(なお、上記の政党名や候補者はすべて架空のものです)。

今回の模擬選挙では比例区の投票用紙を渡す係として参加しました。選挙の様子を拝見していると、初めて投票を経験すると思われる学生が多数いたことに驚きました。今の1年生が18歳になってから、大きな選挙がなかったのでその影響もあるかと思います。そういった意味でも、今回のような模擬選挙は、選挙に参加するにあたって、必要な基礎知識を修得できる大切な経験になったと思います。今回の模擬選挙を経験した1年生には、今後実施される国政選挙や地方選挙などで、この経験を活かしていただきたいです。

参加した学生のコメント

法学部1年 秋山 心陽



私は模擬選挙を通じて、選挙の大切さを学びました。党ごとに賛成か反対かが全く異なり、自分が共感できるものや、そうでは無いものがあったことから、選択することは重要だと思いました。しかし、どの党の意見もとても納得できるもので、選ぶのが大変でした。例えば、「軍事力を高めるべきか」という争点では、賛成と反対の意見どちらにも共感してしまいとても悩みました。私は、ひまわり党に投票したのですが、結果として他の政党よりも得票が少なく、がっかりしました。模擬選挙は、今までにない経験となり、大変勉強になりました。このおかげで、選挙に行く不安も無くなった気がします。私はどの候補者に投票すれば今後の社会生活が良くなるかをしっかりと考えたうえで、今後の選挙に参加したいと思います。



比例代表制：政党		
あじさい党	チューリップ党	ひまわり党
「日本の国土と文化を守る」	「だれ一人取り残さない社会」	「経済活性 減税社会」
小選挙区制：候補者		
水月 駿 (あじさい党公認)	優木 ローラ (チューリップ党公認)	
「子育てを容易にする地域社会をつくる」	「女性が活躍する社会をつくる」	

(表「模擬選挙のスローガン」)

教員を目指したきっかけは？

柳 中学2年生の時に社会の先生に憧れたことです。その先生の授業は生徒全員の興味関心を引き出す楽しい授業でみんな成績が上がるんです。授業を受けたり先生と話したりするうちに、教える仕事に興味湧き、教員に惹かれるようになりました。

生田目 私も中学2年生の頃、2人の体育の先生に影響を受けました。1人は進路に悩んだ時、親身になってくれた先生で、もう1人は所属していたバスケ部顧問の先生です。競技の指導は勿論、日常生活での挨拶や掃除、感謝の気持ちを持つことなど大切なことを教わり、人として成長できました。

大澤 私も中学生の頃がきっかけです。右手を骨折し、バスケ部での練習ができなくなり、顧問の先生に相談したところ、後輩達の指導を任されることになりました。基礎を教えるうちに、徐々に成長していく後輩の姿を見て、人に教えることの楽しさを知りました。

教育実習を通して学んだことや感じたことは？

大澤 教材研究の大切さです。教材研究をして臨んでも、もっとわかり

Sparkle CROSS TALK

教育実習で学んだ経験を将来に活かす

駿河台大学には、将来教員を目指す学生達が数多く在籍しています。
今回は、3名の学生に教員を目指したきっかけや、
教育実習を通して学んだことを聞き、
将来の展望について語っていただきました。



やなぎ い おき
柳 勇吹

法学部4年

社会科教諭志望

おおさわ い おり
大澤 伊織

スポーツ科学部4年

体育教諭志望

なまため みゆう
生田目 美憂

スポーツ科学部4年

体育教諭志望



やすい伝え方があったのでは？ここはもっと強調して伝えるべき内容だったので？と後悔し、教材研究に終わりはないと実感しました。教科指導担当の先生からは「自分のことを小学生だと思って教材研究をしたほうがいい」というアドバイスをいただきました。指導案を考えて教材研究をするのはとても時間がかかりますが、実際の授業で、生徒が「先生楽しいです」「先生、何々ができるようになりました」と言ってくれて嬉しかったです。

柳 僕も教材研究は重要だと身をもって経験しました。教材研究が足りない授業はかえって生徒に悪い影響を与えてしまうため、間違った知識を

教えないように細心の注意を払って取り組んでいました。また、50分の授業の中でも細部にまで気を遣い、生徒にとって有意義な時間になるよう心がけていました。生活面では生徒一人ひとりの距離感を大切にし、生徒の個性を尊重して接するよう意識していました。

大澤 最終日には生徒から色紙を貰いました。達成感もありますが、生徒の成長を身近で見るとはもうできない寂しさもあり、涙を堪えるのが辛かったです。

柳 実習を経験して、改めて先生方は凄いと感じました。先生方の頑張りを生徒が知ったら、授業の姿勢も変わると思います。

生田目 私はこれから教育実習なので、どんな準備しておくとか良いか知りたいです。

柳 実習前に色々な場所に行っておくといいですよ。自分の経験したことを生徒に話せませすし、そこから会話が広がって、興味を持ってもらえたり、距離が縮まるのでおすすめです。

大澤 生徒へどういった言葉かけをするか、自分の中で想定しておくといふか、実習先の先生から使う教科書を聞いておくと良いと思

います。内容が改訂されていることもあるので、使用する教科書を大学のメディアセンターで借りて読んでおくことは大切ですよ。

教員採用試験に向けて、どのように勉強をされましたか？

生田目 最初はひたすら過去問題集を解いていました。ですが、勉強を進める中で勉強の仕方が不安になり、所属ゼミの平野先生に教員志望のゼミ生を集めて勉強会がしたいと提案しました。春休みに5回勉強会を行いました。内容としては、範囲を振り分けて各自で学習指導要領を読み込み、重要な点をまとめたものと自作の問題を用意して、勉強会で皆で問題を解いたり、先生から補足の説明を受けたりしました。学習指導要領を読み込んだことで問題が解きやすくなりました。受ける自治体によっても問題が大きく異なるため、問題の傾向を把握することは大切だと思います。

柳 隙間時間を活用できる勉強アプリがおすすすめです。大学1、2年生のうちから電車移動の時などに少しでもアプリで勉強すると、3、4年生になったときに大きなアドバンテージが得られると思います。実際、教員採

用試験に合格した先生も通勤時間にアプリを使って勉強をしていたそうです。それを聞いて私もすぐに始めましたが、もっと早く始めておけばよかったと後悔しています。教員を目指している方には、ぜひアプリを活用して効率的に勉強してほしいと思います。

将来はどんな教員になりたいですか？

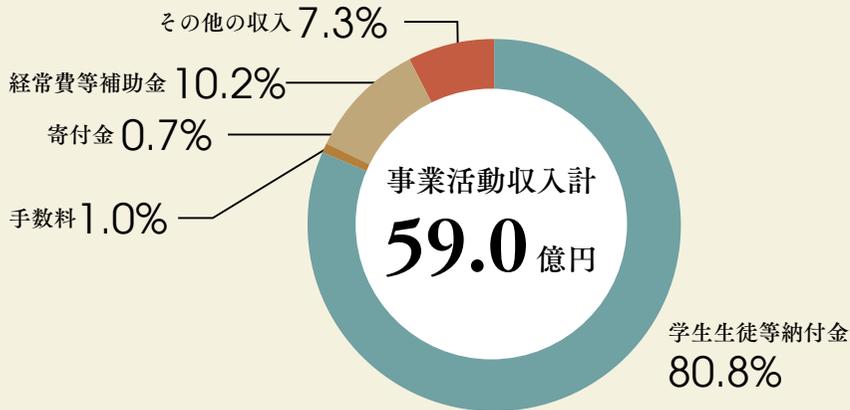
大澤 教員になってからも現状に満足せず、スポーツや保健の授業を生徒に楽しんでもらえるよう、生徒の主体性を引き出す工夫をしたり、どのように伝えれば生徒のできることが増えるのかを考え、学び続けることができる教員になりたいです。

柳 生徒になにかきっかけを与えられるような教員になりたいです。慕われる教員になるためにも知識量を増やし、コミュニケーション能力を高めていきます。

生田目 生徒たちと学び続ける伴走者になりたいです。私自身、元々体育が得意ではなかったこともあり、体育が苦手な生徒の気持ちがかかるので、そういった生徒にも寄り添った授業をしたいです。生徒と同じ目線で学び、お互いが成長できる姿勢を持ち続けたいと思います。

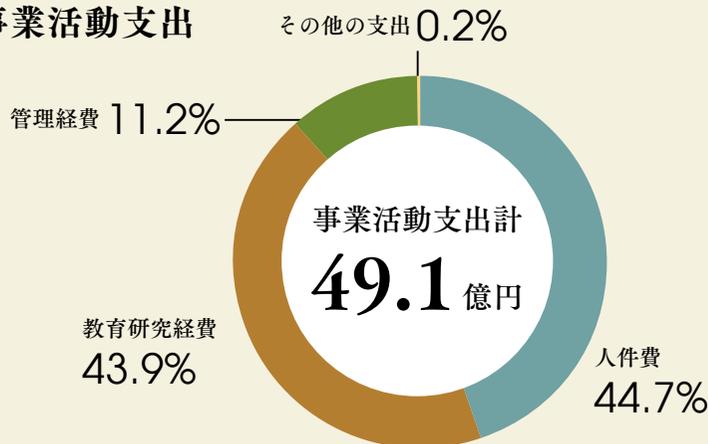
2023年度（令和5年度）決算 学校法人駿河台大学の財務状況

事業活動収入



事業活動収入合計(教育活動収入、教育活動外収入及び特別収入の合計)は59億283万円となり、前年度比で6,507万円の増加となりました。主な増加要因としては、寄付金収入、経常費補助金、雑収入が増加しています。

事業活動支出

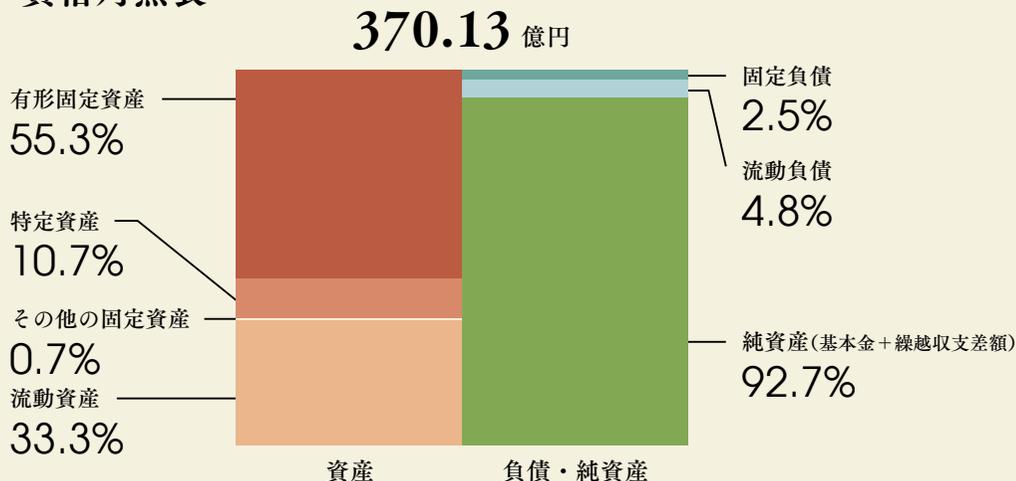


事業活動支出合計(教育活動支出、教育活動外支出及び特別支出の合計)は49億1,082万円で、前年度比で8,508万円増加しました。主な増加要因としては、人件費の増加が挙げられます。

事業活動収入から事業活動支出を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は9億9,201万円の収入超過となりました。

事業活動収入・支出は、当該年度の教育活動、教育外活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするものであり、貸借対照表は、年度末での財産状態を表しています。

貸借対照表



資産は施設設備引当特定資産の計上を主な要因として、前年度より6億1,461万円増加し、370億1,322万円となりました。

負債総額(固定負債、流動負債の合計)は学費徴収方法の変更により、2024年度新入生の前受金が減少したのを主な要因として、前年度より3億7,739万円減少し、27億347万円となりました。負債総額の総資産に対する総負債比率(小さい値ほど良い)は7.3%で、「今日の私学財政(日本私立学校振興・共済事業団発行)」の令和4年度の大学法人全体(医学部・歯学部系法人を除く)の平均11.7%を下回っており、負債の少ない財政状況を示しています。

資産総額から負債総額を差し引いた「純資産」は前年度より9億9,201万円増加し、343億975万円となりました。

学校法人は、財務情報の公開を行うことが義務付けられています。また私立学校の収入源が学生生徒等納付金や国及び地方自治体の補助金などで賄われていることから、学生や保証人の皆様はもちろんのこと、広く一般に大学の経営環境に対する理解を得るために、透明性の確保に努めなければなりません。

本学では、ホームページにおいて財務諸表を始め事業計画書及び事業報告書を積極的に公開しております。ここでは2023年度(令和5年度)の決算についてグラフを用いて公開します。公開により、学校法人としての公共性を高め、さらに今後の本学の発展につなげていきたいと考えております。



駿河台大学 財務状況公開ページ

<https://www.surugadai.ac.jp/about/finance.html>

財務部財務課

駿河台大学の活動報告 *activity report*



「令和6年度子ども大学はんのう」が開校

2024年7月6日

「子ども大学はんのう」は、駿河台大学・飯能商工会議所・飯能信用金庫・飯能市教育委員会が連携し、子どもの知的好奇心を満足させる学びの機会を提供することを目的としています。今年度は、市内の50名の児童が“学生”として入学しました。初日には入学式が行われ、城井光広子ども大学はんのう学長（本学副学長）と、新井重治飯能市長が挨拶をしました。今年度は、夏から秋にかけて全5回のプログラムを実施します。



留学生浴衣着付け体験

2024年7月8日

ドイツ・中国からの交換受入留学生7名と一般留学生4名が『浴衣の着付け』を体験しました。浴衣の着付けは、グローバル教育センター委員の増田教授が担当し、自分たちで選んだ浴衣を身に着けました。最初は慣れない浴衣や草履に戸惑っていましたが、だんだんと歩くのにも慣れ、普段とは違う装いを楽しんでいました。着付け後はお互いに写真を撮りあい、中には浴衣を着て授業に参加する学生も見られました。



学部長賞表彰式

2024年7月16日～19日

「学部長賞」は、課外活動等において顕著な活動をした学生・学生団体、前年度までの学業成績が優秀な学生を表彰する制度です。今年度も学部ごとに表彰式が執り行われ、学部長から受賞者へ賞状が授与されました。受賞した皆さん、改めておめでとうございます。皆さんの更なるご活躍を期待しています。なお、各学部の受賞者は本誌の10ページに「学業成績優秀奨学生」「スポーツ年間特待生」と併せて掲載しています。



名誉教授称号記授与式

2024年7月18日

名誉教授に山崎理事長が称号記を授与し、大森一宏学長がこれまでの教育及び学術上の功績に敬意を表すとともに、本学での功労に感謝の言葉を述べました。今年度、名誉教授の称号を授与された方々は、湯浅由一名誉教授（経済経営学部）、渡辺裕子名誉教授（経済経営学部）、本池巧名誉教授（メディア情報学部）、大貫秀明名誉教授（スポーツ科学部）、小俣謙二名誉教授（心理学部）の5名です。



公式HP



公式X

その他の活動、最新情報は大学HPやXで更新しています。
ぜひご覧ください。



屋外映画上映会

2024年7月26日

本学の芝生を活用した初の試みである屋外映画上映会には、多くの学生が学部学年問わず参加しました。レジャーシートの貸し出しとポップコーン、飲み物を配布し、夏に鑑賞するのにピッタリなアニメーション映画「時をかける少女」を上映しました。途中、雨が降ってきたため、学内に移動しての実施となりましたが「屋外でくつろぎながら見ることができ、ピクニックみたいで楽しかった」など、満足の声が聞かれました。



夏のオープンキャンパス

2024年7月下旬～8月下旬

本学では年間を通じて全12回オープンキャンパスを開催していますが、7月8月に行われる夏のオープンキャンパスでは通常よりも企画が増え、1日を通して実施しています。今年度も多くの来場者の方々を迎え、模擬授業で本学の学びを体感し、学生スタッフによるキャンパスツアーで学内を見学していただきました。また、夏限定の学食無料体験企画が数年ぶりに復活し、実際の学食を体験いただき、大変好評でした。



おやこde先生の未来教室

2024年8月6日

心理学部の相馬ゼミで、入間市のNPO法人子育て家庭支援センター「AIKURU」の皆様のご協力の元「おやこde先生の未来教室」を行いました。この企画は、乳幼児期の子どもたちとその保護者の方々を本学にお呼びし、子どもの発達や子育ての実際について、直接のふれあいを通して学び・理解することを目的としています。当日はゼミの3・4年生が参加し、9組の親子さんが来ていただきました。



学生が「星宮神社例大祭」に参加

2024年9月29日

飯能市上名栗の星宮神社で例大祭が開催され、市の無形民俗文化財に指定されている獅子舞が奉納されました。本学学生も授業「まちづくり実践」の教育活動として獅子舞の演目「花懸り」と「神楽」を担当しました。この活動では地元地域で活躍する人々と触れ合い、社会的な力、実践的な計画力、問題解決能力などを身につけるとともに、社会観や職業観を確固としたものにするを目標としています。

限界を超える！
駿大スポーツ

ストイックにひたむきに

硬式野球部



経済経営学部4年 下間 博貴選手

今年度の東京新大学野球連盟1部春季リーグにおいて、「最優秀防御率」(防御率1.21を記録)のタイトルを獲得した、硬式野球部副主将の下間選手に野球を始めたきっかけや、リーグ戦についての感想、今後の目標について伺った。

父と兄の影響で野球の道へ

もともとはサッカーをやっていたかったと語る下間選手。野球を始めたきっかけは父と兄の影響だという。3歳年上の兄が野球をしている姿を見て、5歳から野球を始めた。それからは野球の楽しさを体感し、小・中・高と野球部に所属。高校時代には強豪校のチームリーダーとして活躍し、甲子園にも出場予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止となり悔し涙をのんだ。悔しい経験があるからこそ、今も勝つことには貪欲だ。現在は、本学硬式野球部の副主将を務め、高校生にとって憧れの存在でもある。下間選手とプレーすることを目標に本学に入学し、同部に所属する後輩もいるようだ。

高みを目指してチームを鼓舞

硬式野球部は150名ほどの部員がいる大所帯。その中で副主将としてチームを鼓舞し、まとまりのあるチームを目指している。先輩と後輩の距離が近く、選手同士が寄り添える関係であることがチームの良いところであり特徴だと話す一方で、個々の選手が目指す目標やレベルは様々なようだ。「最優秀防御率」のタイトルを獲得してもなお、今の自分に満足

することはなく、常に上を目指す下間選手。チームのメンバーに優勝を勝ち取るこの大変さや、優勝までの道のりを伝え、チーム全体の士気を高めている。

優勝の2文字を目指して

普段の練習では基礎体力作りも欠かさない。ウエイトトレーニングや走り込みを行い、下半身や体幹を鍛えている。規則正しい生活が体の資本だと考えており、食事にも気を遣っている。タンパク質を多く含む食材をメインにバランスよく食べることで筋力を維持している。チームとしては、「自立」をテーマとしているそうだ。野球は団体競技ではあるものの、マウンドに立つときも、打席に立つときも誰も助けてはくれない。普段から人に頼りすぎず、個々で物事を考え、責任感を持った行動ができるよう「自立」を大事にしている。秋季リーグでは勝つことこそこだわって練習に取り組んでいる。自分のピッチングを見つめ直し、勝利に貢献できる投手になれるように二日二日を過ごしていきたいと語る。悲願のチーム優勝と、個人として「最多勝利」のタイトルを獲得することを目標に突き進み、ラストシーズンを最高の笑顔で締めくくってほしい。

2024年度 表彰学生発表

● 学業成績優秀奨学生 前年度までの学業成績及び人物が特に優れている学生に対し奨学金を給付する制度です。

法学部	最優秀奨学生	4年 松永妃華	3年 遊佐亮太	2年 小林涼音 白石湖子
	優秀奨学生	4年 石井滉太	伊東秀高 久保田大樹 齋藤涼花 田中駿佑 長岡理々子	
		3年 池田翔太 普久原寧	石塚陽和 齋藤美咲 佐々木智哉 佐山奈津実 曾田真斗	
	2年 瀧澤知樺	竹花治翔 引間哀斗 藤沼大揮 古家巧真 和田淳也 他1名		
経済経営学部	最優秀奨学生	4年 黒岩葉琉	3年 滝田啓貴	2年 奥田啓冴
	優秀奨学生	4年 青木葉瑚	川島若奈 藤野考樹 宮内大芽 渡邊悠 渡辺諒哉	
		3年 天野孝祐	木谷拓哉 栗田侑 眞田侑典 福嶋大護 山口優	
	2年 小沼心護	上戸唯斗 倉島かえで 平野視生 山本陽輝 渡邊勇汰 他2名		
メディア情報学部	最優秀奨学生	4年 岡本淳雅	3年 荒井樹里	2年 菅野結
	優秀奨学生	4年 石川若菜	小野寺梢 鈴木宇翔 根岸未央 矢野匠海 山崎紅香	
		3年 飯野ひなた	鎌田桃子 小山愛海 渋谷諒太 諏訪智宥 宮野祐実	
	2年 小山優子	西貝和佳奈 藤森啓介 藤原世望 森谷佑海 渡辺彩夏		
スポーツ科学部	最優秀奨学生	4年 佐藤天晟	3年 及川奈央	2年 大野怜旺
	優秀奨学生	4年 大澤伊織	腰塚真菜 中村木ノ実 生田目美憂 服部駿樹 藤田涼樺	
		3年 飯塚頑人	尾熊凌大 奥山真一朗 田代真斗 中田千夏 三浦知也	
	2年 片倉銀河	黒川心羽 杉田凌馬 高橋侑大 松本隼 他1名		
心理学部	最優秀奨学生	4年 岡本真奈	3年 山崎紗也夏	2年 服部桐也
	優秀奨学生	4年 上野静剛	金井智哉 原口真利亜 堀籠優月 増岡彩乃 山西彩貴	
		3年 池田遥菜	木佐貫花枝 鬼頭美羽 澤海美空 竹内沙樹 寶積敵勇	
	2年 石谷紗恵子	島田妃女伽 清水風優人 田中完武 三上詩織 他2名		

● 学部長賞 課外活動等において顕著な活動をした学生・学生団体、前年度までの学業成績が優秀な学生が表彰されます。

法学部	4年 新井修矢 神山庸 木村将也 ZHAO WEIYUN 長野眞生 永山歩佳 錦洋輝 山田陽斗
	3年 阿部美里 江澤果艶 北岳司 他2名
経済経営学部	4年 下間博貴 柳田夏希 3年 小林勇太 丸山聡太 2年 久保舞華 杉本奈津希
メディア情報学部	4年 江幡美希 齋藤春佳 佐野直子 島村峻成 星野萌優 3年 佐藤陽菜 須藤拓夢
	2年 久保俊翔
スポーツ科学部	4年 會澤夏鈴 伊藤駿太郎 大澤伊織 桑田茉依 佐藤天晟 篠田宗祐 砂川尚紀 津田京尚
	藤田涼樺 土屋葵
	3年 田代真斗 中上瑞葵 増井幸輝 2年 亀田健太郎 熊倉菜々美
心理学部	4年 鈴木萌花 3年 岩崎美優 印南和奏 宇野綾乃 2年 荒木眞介 他1名

● スポーツ年間特待生 スポーツ競技成績及び人物が特に優れている学生に対し奨学金を給付する制度です。

経済経営学部	4年 オリサ 裕司 マイケル(陸上競技部)
スポーツ科学部	3年 伊藤樹生(カヌー部[スラローム]) 池田怜央(男子ホッケー部)
	2年 佐野こはな(陸上競技部)
心理学部	4年 竹本美月(女子ホッケー部)

Circle and Me

学業とサークル活動を両立して成長している
学生を紹介します。



茶道クラブ× 岡本 淳雅 [メディア情報学部・4年]

茶道クラブに所属したきっかけ

茶道を初めて知ったのは保育所の行事でした。それから時が経ち、中学生の時に選択授業で半年程、裏千家茶道を学びました。大学に入学してからは、サークルに入り、交流を深めたいと思っていたところ、茶道クラブの存在を知りました。中学時代はサッカー部、高校時代は生徒会執行部の生徒会長を経験したので、大学では、中学で学んで楽しかった茶道をやりたいと思い、茶道クラブに入部しました。そして現在に至るまで4年間継続しています。続けられている要因は、日々の活動の楽しさはもちろんのこと、「抹茶とお菓子」を食べられることですかね(笑)。

どのような活動をしていますか？

週に1回、動画や本を活用しながら、抹茶・お菓子の頂き方、抹茶の点て方を実践的に学んでいます。茶道クラブは、入部するのも退部するのも自由なサークルです。部員の人数を無理にでも増やそうという野心が一切ないからこそ、幽霊部員は問わず、メリハリを付けて真摯に活動に取り組む学生が集まっています。大きなイベントとしては、今年から始めた4月の学内お茶会と、10月の駿輝祭で裏千家茶道のお手前を披露することです。お茶会では、日々お世話になっている先生や職員の皆様、新入生、留学生など約100名にその場で点てた抹茶を提供し、日々の

感謝を伝えるとともに、茶道という伝統的な日本の文化に触れ、茶道を身近に感じてもらう良い機会になりました。

今後どのような活動をしていきたいですか？

今年度の駿輝祭でお手前を披露したいです。一昨年や昨年は、社会情勢や人手不足で披露することができず、喫茶店のように抹茶とお菓子の提供だけでしたが、今年は来場者の方々にお手前を披露するため、着々と準備を進めています。また、来年度は他のサークルともコラボして和の文化に触れていただくミニショー会場としての出展を目指しています。

今後の目標は何ですか？

希望していたハウスメーカーの会社から内定をいただくことができたので、粘り強く努力して、誇れる社会人になりたいです。「住まい」は生活に欠かせないものであり、思い出の傍には、いつも「住まい」があると考えています。「住まい」によってそこに住む人の人生が大きく変わります。そんな「住まい」を提供することには大きな責任が伴うからこそ、自分の人生を懸ける価値があると思いい、住宅業界に足を踏み入れました。長い年月お客様に親密に寄り添い、担当者が私で良かったと思ってもらえるよう、強い熱意をもつて一軒一軒を真に大切にしていきたいと考えています。